

# 十津川村谷瀬集落における過疎地域の再生プロジェクト

研究代表者：小路永 凌

共同研究者：井崎 加奈子 石原 由理 大谷 優 田中 優駿

藤森 友梨 前田 康介 三浦 香名子 三原 ひとみ

吉井 菜摘 山田 みのり

1. はじめに
2. 研究の目的
3. 谷瀬集落の概要
4. 活動内容
5. まとめ

## 1. はじめに

当研究のフィールドは奈良県十津川村谷瀬集落である。十津川村は奈良県最南端に位置し、面積が672km<sup>2</sup>と村としては日本一の広さを誇る。この村は人口減少が著しく、1970年には約8,500人であった人口が、2015年12月1日現在、3,598人まで減少しており、過疎化が進んでいる。

十津川村は、2011年9月に発生した紀伊半島大水害によって、死者7人、行方不明者6人、全壊家屋18棟、半壊家屋30棟、道路被害130カ所という甚大な被害を被った。先ほど述べたような人口減少に加え、少子高齢化や産業の低迷等の問題を元々抱えていた地域であり、災害発生前の姿に戻す「復旧」ではなく「復興」を、そしてよりよい村づくりへつなげようと村が一丸となって立ち上がった。その一環として「新集落づくりに向けた集落再生プロジェクト」が始動し、モデル地区の一つに谷瀬集落が選定された。

谷瀬集落では、月に1回開催される住民会議（寄合）において、住民の方々やNPO スローライフジャパンや地域計画研究所といったコンサルタントたちによる話し合いが重ねられ、村おこし活動が進められており、その活動に奈良県立大学の神吉専門ゼミおよび奈良女子大学（以下、奈良女）の室崎ゼミが参加している。

## 2. 研究の目的

現在、谷瀬集落では交流人口増加や移住促進を目的のひとつとして村おこしが進められている。そこで当研究では、私たちが谷瀬集落の方々の暮らしに参加しながら、よそ者かつ若者である私たちの目線で、交流人口や移住者を増やすための方策について検討することを目的としている。

## 3. 谷瀬集落の概要

谷瀬集落は、西坊・中切・上地・平地の4つの小字からなる。38世帯、59人が暮らしており、高齢化率は37%に達している。

集落の人たちは、年間14万人の観光客が訪れる「谷瀬の吊り橋」のたもとの茶屋を集落

の人たちで共同運営し、秋の松茸採りと出荷、冬の「ゆうべし」づくり等をすべて共同で行い、神事等の村の行事や新年会・敬老会等への出席率が高い等、村内でもつながりを大切にしている集落として有名である。

#### 4. 活動内容

2015年に私たち神吉ゼミ生が参加した具体的な活動内容を以下に示す。

日 付	活 動 内 容
2015/02/06～07	寄合参加 ゆっくり散歩道の看板作り ゆうべしパック詰め
2015/03/05～08	ゆっくり散歩道の整備（看板土台作り、看板立て、花植え） 探検（展望台、吊り橋、集落周辺にある山） <u>歳時記作りのためのインタビュー</u> 山菜の採集（山菜：のびる） めはり寿司作り、餅丸め 水車小屋の整備 水車小屋お披露目式 神事を開催する金比羅神社の清掃 金比羅神社にて神事
04/11～12	高菜摘み ゆっくり体験の手伝い（餅丸め等） <u>ゆっくり体験参加者へのチラシ作り</u> <u>ゆっくり体験（ゆっくり散歩道の散策、めはり寿司作り、神事参加）</u>
05/09～10	ゆっくり散歩道沿いにある石楠花の植え替え 米作りのためのインタビュー 茶摘み体験
05/16～17	学生が宿泊しているゲストハウスの裏道や階段の草むしり 米づくりのための作業 <u>（荒起こし、水耕、雑草刈り、あぜ板入れ、害獣ネット張り）</u>
06/13～14	田植え 空き家の掃除 どくだみのお茶づくり
07/11～12	<u>空き家の掃除（倉庫からものを出す、壁、床等の掃除、障子張り）</u> 谷瀬の歴史についてのインタビュー 蕎麦畑の荒起こし <u>田んぼの草抜き</u> 盆踊りの練習
08/12～14	蕎麦畑作業（種まき、藁を切る） 盆踊り 屋台手伝い（枝豆を売る）
09/20～22	空き家の清掃 <u>「こやすば」オープン</u> <u>（ゆうべしや高菜を出す、お客さんと交流する、寄付を募る）</u> ピザ釜完成、ピザを食べる
10/17～18	蕎麦の収穫（蕎麦を刈る、縛って干す、種を選別する）
10/24～25	蕎麦の収穫続き（粍殻取り、ふるいにかける） 蕎麦打ち <u>稲刈り（縛って干す）</u> 苺植え
11/07～08	<u>ゆっくり体験</u>

以上の活動を行ったが、その中で下線で示した活動について取りまとめる。

(1) 歳時記づくり

実際に活動をしていく上で、谷瀬集落の1年の生活を把握しておきたいと考え、まずは住民の方々にインタビューをして、谷瀬の歳時記づくりを行った。(図1、図2参照)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
行事	・寄合(通常会) ・餅まき神事(黒木御所)	・寄合(通常会)	・社会科見学	・寄合(通常会)	・寄合(通常会) ・道普請(1日) ・盆踊り(13日)	・寄合(通常会) ・秋の集い(敬老の日) ・まつたけ道の整備
山	・わらび ・ぜんまい ・やまつど ・ふきのとう ・たけのこ ・どくだみ ・のびる					・まつたけ ←
田畑	・ピーマン(苗植え) ← ・なす(苗植え) ← ・おくら(苗植え) ← ・そら豆(苗植え) ← ・エンドウ(苗植え) ← ・やつがしら:十津川のいも(植えつけ) ← ・茶(摘み取り) ← ・高菜(摘み取り) ←	・さつまいも(植えつけ) ←			収穫 ・白菜(苗植え) ← 収穫 ・大根(苗植え) ← 収穫 収穫 収穫	
川	・アマゴ ←	・田植え ←			・田の草取り	・稲刈り ←
花	・桜の花		・アユ ←			
作業		・お茶づくり ・草もちづくり	・梅干しづくり			

(図1) 歳時記(上半期)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
		・餅まき神事(森山神社)	・寄合(通常会)	・新春のつどい		・年次総会 ・餅まき神事(金毘羅神社)	行事
山	・コウタケ ・しめじ ・なめこ					・ふきのとう ・のびる	
田畑	収穫 収穫	収穫					
川	収穫 ・ゆず						
花	・うなぎ					・桜の花 ・梅の花 ・菜の花	
作業		・ゆうべづくり ・ゆずジュース、ジャム、シャーベットづくり ・みそ、こんにやくづくり		・どぶろくづくり ←	・パッキング		

(図2) 歳時記(下半期)

歳時記づくりによって、どの活動に私たちが参加できるのかを把握することができるようになり、この歳時記を参考にしながら実際に活動を行った。

## (2) ゆっくり体験

谷瀬集落では、毎年4月に黒木御所で神事、11月に森山神社で神事が執り行われており、これまで集落の人限定だったこれらの神事を集落以外の人にもオープンにして参加してもらうことにし、「ゆっくり体験」と名付けたイベントとして開催した。谷瀬集落以外の人たちに、谷瀬集落の生活を体験してもらい、より多くの人に谷瀬の魅力を知ってもらうのが目的である。

4月の「ゆっくり体験」では、参加者たちは「谷瀬の吊り橋」から集落内を通り、吊り橋の全景を眺望できる展望台へと続く「ゆっくり散歩道」の散策や、吉野地方の郷土料理である「めはり寿司」作り（写真1）を体験してから、神事に参加した。11月には谷瀬で採れた松茸や里芋を使ったピザ作りが体験メニューに取り入れられた。神事の最後には、餅やインスタントラーメン、お菓子などをまくユニークな餅まきが行われるのだが、集落の人たちと混じって参加者も必死になって取り合っていた。

私たち学生は体験前日に現地入りし、よそ者からの視点で体験の流れの確認や、当日使用するチラシ作り（図3）、神事で使用する餅丸め、神社の掃除など、集落の方々が行う活動のサポートをした。



（写真1）めはり寿司作りの様子



（図3）体験で使用したチラシ

## (3) 空き家再生プロジェクト

集落の方々同士の交流や集落の方々と観光客との交流の場の創出のため、現在空き家となっている建物を再生・活用するプロジェクトが行われた。

この家は、昭和40年頃から約50年間空き家となっているが、たまに次男や四男などの親戚が泊まりに来ることや、最近では地域おこし協力隊の方が数年間住んでいたこともあった。

谷瀬の家は造りには様々な特徴があり、特に杉の木を薄く切って交互に重ねて作る惣木（そうぎ）葺きと呼ばれる屋根や、洗濯物を干したり、お茶を煎って干したり、客が来た時のスペースとしても使われていた広縁（ひろえん）と呼ばれる縁側がある。この縁側は普通の約2倍の広さがあるそうだ。また、家を支える柱は丈夫であるため、50年間空き家であっても掃除すれば使用できる状態であり、この建物が「ゆっくり散歩道」沿いにあるため、住民の方々も観光客の方々も立ち寄りやすい位置にある。

そこで、散歩道を訪れる観光客に広縁で休憩してもらい、集落の方々が飲み物や特産品の「ゆうべし」などを提供して交流を深める場「こやすば」が整備されることになった。「こやすば」という名前は、寄合での話し合いで決められ、山登りの際に道の途中にある休憩所を「休

場（やすば）」と呼んでいたことから名づけられた。

私たちは、6月から7月にかけて、建物の掃除の手伝いをした。人の背丈ほどある広縁の草抜きから始め、佐田邸の家の床や壁などの掃き掃除や拭き掃除、障子の張り替え等を行った（写真2）。また、倉庫の中をいったん取り出して整理した。この時、現在では使われていないような昔の農機具や日用品などが見つかった。

3回ほど家全体の掃除を行い、9月下旬に「こやすば」としてオープンさせた（写真）。「こやすば」は、観光客の休憩する場所という目的であるとともに、集落の方々と観光客との交流の場となることも目的であるため、学生は裏方の仕事を中心に、地域住民や観光客が集まって話ができる環境づくりを手伝った。



（写真2）佐田邸の掃除



（写真3）こやすばオープン

#### （4）濁り酒プロジェクト

谷瀬の新しい特産品を作るため、集落の人たちが中心となって、濁り酒プロジェクトがスタートした。集落の耕作放棄地で酒米を収穫し、収穫後に酒造会社と協力して酒を醸造するというプロジェクトである。

私たち学生は、手押し耕運機やくわを利用して土地を耕す「荒起こし」から、収穫までの作業を集落の方々と共同で行った。さらに、谷瀬集落は山あいに位置しており、野生動物に荒らされる可能性があるため、獣害ネットを設置した。

そして、6月に田植えを行った（写真4）。手植えと機械植えの両方を行い、泥だらけになりながら作業をしたため、昔の農業の大変さを感じた。

田植えが終わった後、夏の間は田んぼの周りの定期的な草刈りを行い、10月に稲刈りを行った。稲刈りも手で植えたところは手刈りを、機械で植えたところは機械で刈り取り、その稲を4.5本束ねて「はで場」で干して乾燥させた（写真5）。

干した米は業者の方に米穀検査していただき、三等米と判定され、無事酒米として使用することができる。そして、現在は酒造会社に製造を依頼しており、4月には一升瓶500本分のお酒が完成する予定だ。



(写真 4) 田植えの様子



(写真 5) はで場で干す様子

## 5. まとめ

「新集落づくりに向けた集落再生プロジェクト」において、交流人口を増やし、移住者を増やすという目的を達成するためには、2015年に行った活動を基礎とし、どれだけ発展させていけるかが今後のカギとなってくる。

まず、「ゆっくり体験」に関しては、2015年のイベントで得た経験を生かし、内容を改善するなどの工夫が必要だ。そのためには、私たちが体験した米作りを始め、そばづくりや茶摘みなどの活動を増やしていけないか検討すべきであると考えます。

また、空き家再生プロジェクトでは、空き家を掃除している中で、谷瀬で使われていた多くの道具が見つかり、地元の方から様々なお話を聞くことができた。この時、これらを資料として展示し、観光客に谷瀬の暮らしを知ってもらおうきっかけづくりをしたいという意見が挙がった。加えて、「こやすば」をサロンやカフェとして活用し、地域コミュニティの拠点となるようにサポートしていきたい。

そして、濁り酒プロジェクトに参加したことで、普段農作業に関わらない私たちにとって学ぶことがたくさんあった。苗の植え方や稲の干し方においても、一見普通に行うように見えても、実は効率の良い方法をとっていることにとても驚いた。前述のように、観光客に「ゆっくり体験」の中で体験してもらおうと、観光客にも私たちが感じた驚きを感じてもらえるのではないだろうか。また、新たな特産品をつくるという点でも、第一歩を踏み出せたと感じる。酒米を作り濁り酒の生産が可能になれば、谷瀬のPRにもつながり、移住者を増やす際の職の創出にもつながることが考えられる。

この1年、谷瀬で活動した中で、日常の私たちの生活では体験できない貴重な経験をさせて頂いた。また、学生も集落の方々に対して様々なサポートをすることができ、学生も住民の方々も互いに利益を得ることができたと考えられる。来年度も集落の方々と共に集落の再生に取り組み、交流人口を増やし、移住者を増やすという目的を達成するべく活動をしていきたい。